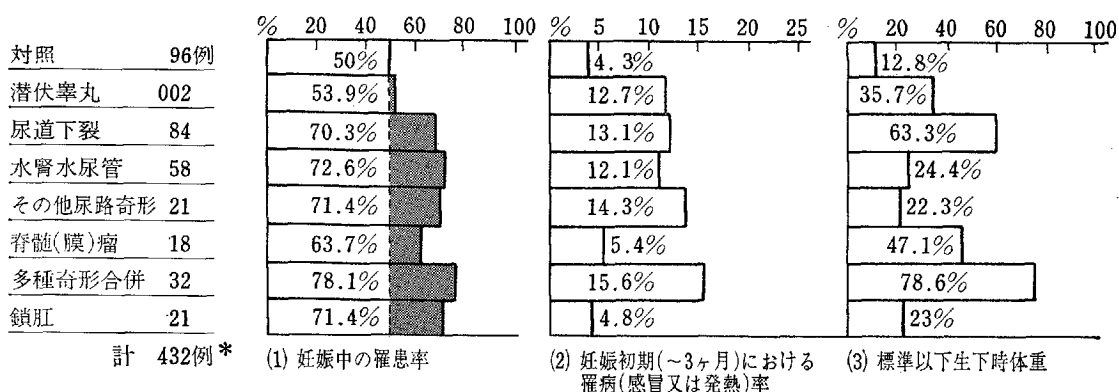


表 1 出生前状況追跡調査



(注) この432例はいずれも国立小児病院泌尿器科における症例である。追跡調査は各疾患につき、同時に行った。

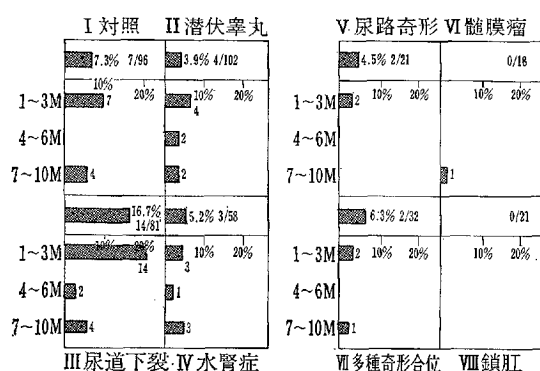


図 1 妊娠中に progesterone 療法をうけた率

計 608 例についてみると、そのうち、陰茎形成、尿道形成いずれも終了したのは 291 例であり、手術的治療を必要とせず、観察中のもの 172 例、手術的治療待期中(第 1 または第 2 次手術)のもの 145 例である。

ことに、出生前状況について精査しえた 84 例に対し、妊娠中の罹患率、妊娠初期(～3ヶ月)における罹病

(感冒、または発熱)率、標準以下生下時体重の割合を求め、同時に他の先天性異常のデータとを比較したが、その成績は表 1 の通りである。

また、妊娠初期に性器出血があり、流産予防の目的で progesterone の注射をうけている率をみると図 1 の通りであった。

以上のことから、尿道下裂においてはことに生下時体重が標準以下である割合が高く、かつ、妊娠初期での progesterone 療法をうけている率も高いことが明らかとなった。これらの成績から、その成因について結論づけることはできないが、今後の研究にひとつの方向づけを与えることは可能である。今後、さらに成長後の身長、体重の変動を調査する必要がある、その点は次年度の研究計企に追加したいと考えている。なお、尿道下裂症例において他の尿路性器奇形がどの程度の頻度と内容を有するか、染色体異常の有無についての追跡も、次年度、ないし、次々年度に追加調査する予定である。

小児の尿路奇形に関する研究

京都大学小児科 奥田 六郎

研究目的

尿路奇形は、発生頻度も高く、小児の奇形のうちでも非常に重要な位置を占める。奇形発生は、上部尿路から下部尿路にいたるまで、種々の部位にみられ、しかも、

予後に重大な影響を与えるものから、何ら処置を要しない軽症のものまで、多岐にわたる。尿道下裂は、小児科領域でも時にみられる奇形であるが、重症型では、生直後より泌尿器科あるいは外科で管理され、逆に軽症型は、それ単独では小児科医の関心はうすい。しかしながら、

先天性の性ホルモン産生酵素の欠損や Smith-Lemli-opitz 症候群などの多発奇形を伴う遺伝性の症候群などでは、尿道下裂が重要な診断根拠にもなり、小児科の日常診療においても充分な関心が払われるべきであろう。かゝる意味で、本年度は尿道下裂の発生頻度の調査を目的とした。

研究結果

先づ、新生児における尿道下裂の出生頻度をしらべた。無選択に、妊婦の入院する、一般病院(守山病院)産科を対象とした。昭和51年から3年間に出生した新生男児1,475名中、尿道下裂は1名(0.061%)のみであった。次いで、参考までに、京大小児科外来受診者のうちの尿道下裂患者についてしらべた。昭和49年から53年までの5年間に、患者総数25,155名が受診したが、尿道下裂

は6名のみであった。ただし、本院小児科外来では、一般外来と各種専門外来とに分れていて複雑であるので、正確な実数ではなく、しかも、選択された患者についての頻度なので、尿道下裂の発生頻度の参考には出来ない。

次年度の研究方針

新生男児における尿道下裂の発生頻度は、0.061%であった。小児科の日常診療において、尿道下裂を軽視出来ないことは、先に述べたが、実際に小児科に受診する患者の実数は非常に少ない。

ところで、最近、学童・生徒の集団検尿が全国的に行われるようになり、集団検尿異常者の受診者が多くなった。次年度は、これら集団検尿異常者における尿路奇形の頻度、種類および尿異常との関係について調査する予定である。

尿道下裂に関する臨床的研究

山口大学泌尿器科 酒 徳 治 三 郎
那 須 誉 人

目的: 尿道下裂は泌尿器科領域で多くみられる先天性異常であるがその発生機序はまだ十分に解明されておらず、その治療法に関して種々の手術方法がおこなわれている。

山口大学泌尿器科にて入院、手術を行なった症例の臨床統計を行なった。

対象および方法

昭和39年より昭和54年1月まで山口大学泌尿器科を受診、入院をした33名について以下の検討をおこなった。

- 1) 初診時の患者の年齢分布、
- 2) 尿道下裂の程度、
- 3) 性器およびその他の合併症、
- 4) 生下時の異常について、
- 5) 家族歴について。

結 果

- 1) 初診時の患者の年齢分布

0~4歳	17名
5~9 "	8 "
10~14 "	3 "
15~19 "	1 "
20~24 "	2 "
25~29 "	0 "

30~34 " 1 " 不明1名

- 2) 尿道下裂の程度

尿道下裂の程度については記載のあるものについて、外尿道口の位置で亀頭部、陰茎部、陰茎陰囊部、陰囊部、会陰部の5種類に分類した。その結果は以下のとおりである。

亀頭部	1名
陰茎部	12名
陰茎陰囊部	11名
陰囊部	1名
会陰部	0名

- 3) 性器およびその他の合併症

停留睾丸 一側性	1例
両側性	3例
ソケイヘルニア	5例
口蓋破裂	1例
多睾丸症	1例
Inter sex	2例
VSD	1例
PDA	1例
hydrocele	1例

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

尿路奇形は、発生頻度も高く、小児の奇形のうちでも非常に重要な位置を占める。奇形発生は、上部尿路から下部尿路にいたるまで、種々の部位にみられ、しかも、予後に重大な影響を与えるものから、何ら処置を要しない軽症のものまで、多岐にわたる。